

滋賀県 死生懇話会

インタビュー シリーズ

宗教学者 山折哲雄さん

×

滋賀県知事 三日月大造

電話インタビュー

2021年6月16日

宗教学者 山折哲雄さんに知事が電話インタビュー。滋賀県で2020年12月に設置した「死生懇話会」についての印象やアドバイスなどをお話いただきました。



宗教学者
山折 哲雄氏

滋賀県知事
三日月 大造



…滋賀県で「死生懇話会」を設置…

行政が、正面からこの問題に取り組まれたのは、なかったと思いますね。私は「共生共死」という観点から人間の人生、ものを考えなきゃならんと半世紀ずっと言い続けてきました。

知事 滋賀県で「死生懇話会」というのを立ち上げました。

山折先生 よくやられましたよね。私も半世紀ぐらい「生」と「死」の問題、全国組織や地域のものも含めて関わってきた人間の一人なんですけどね。行政が、正面からこの問題に取り組まれたのは、なかったと思いますね。

どうですか？行政があるいは県が、これを政策的な問題として取り上げたのは。他に何か先例を参考にされましたか？

知事 いえ、私の知る限り、他の都道府県でこういうことをやられている例は知りません。

山折先生 すでに第1回の懇話会は開催されたということですが、それについては非常に敬意を表しております。これからこれをどう発展させるかというの難しい、根気のいる仕事になる

だろうなという気はします。

知事 そうなんです。そこで先生に今後の歩みといいますか、悩み、また、ものの見方を色々と教えていただきたいなと思ひまして。

山折先生 以前はどここの地域、どここの県での大会におきましても、基本的にこの「生」と「死」の問題はやっぱり個人の問題だから、個人として参画するというのが前提でしたね。ところがですね、年々、参加する方々の数が増えてまいりましてね。だいたい全国大会の時には、2000人から多い時には3000人集まるような。

我々の人生論におきまして、「共生」という言葉が戦後の合言葉になりました。しかし人間っていうのは、共に生きて、やがて共に死んでいくんだよと。私は「共生共死」という観点から人間の人生、ものを考えなきゃならんと半世紀ずっと言い続けてきました。しかし、共死の問題が取り上げられることはありませんでした。

知事 例えば、幸せっていうのは何なんだと。それらはどうすれば得られるのかと。誰も死ぬこととか老いることとか病は避けられないんだから、それを真正面から直視しようじゃないかと。それで

そのことから限りある「生」、生きていくことを大事にすることができないだろうか。

先生も先ほどおっしゃった「共に生きて、共に死ぬ」、死の準備をする、こういうことについても、逃げず避けず考えるそういう機会を我々はつくつていきたいと思っています。

山折先生 滋賀県で生と死の問題を取りあげる時、一つのアイディアとして前から言っているんですけど、びわ湖の水の問題、比叡山の山の問題、水と土、水と山ですよ。その2つの問題を中心にした物語を作るといいの。それを映画にしたりDVDにして、小学生、中学生に見せる。漫画でもいいし、アニメでもいいですけど。

それで主人公を人間じゃなくてですね、動物に、魚たちにする。そういう物語をつくって、地元の小学生、中学生たちに見せる。小中学生とその親たちが関心を持ち始めたら、自然と政策に反映させることができるんじゃないかと。

知事 今、身の周りで「死」というものを目にする機会が減ったじゃないですか。ですから、子どもたちに、次の世代に、どういう伝達をしていくのかっていうのも課題になっていましてね。

先生が今おっしゃった、物語や映画のようなものをつくって、そして「主人公は人間ではない」という発想にはすごく惹かれました。

歳をとり、体が弱り、死が間近になってきて、むしろ不安に包まれてる方が非常に多いと思います。

知事 70歳代、80歳代の方が増えてきて、やはり余命のこと、もしくは死のことを考える人っていうのは増えているように思っています。

山折先生 それはもちろん増えてますよ。でも死に立ち向かう勇氣が出てくる、元氣が出てくるっていうところまではまだいってないと思いますね。歳をとり、体が弱り、死が間近になってきて、むしろ不安に包まれてる方が非常に多いと思います。

知事 ただやはり、「望む生き方をしたい」という欲求と同時に、「望む死に方をしたい」という人もこれから増えてくると思います。

山折先生 増えてくると思いますね。痛みと不安に包まれた老年は送りたくないと思っていますよ。ただ、いかんともしたがたくそういう状況に追

い込まれていくのは歳をとるっていうことですよ。これは私自身もそうなんですけど。

今、介護要員がどんどん少なくなってきて、これが不安の種になっていると思います。それから認知症の問題も。そういう時に、治療薬の発見なんていうニュースがあると、やっぱりそれに飛びつく。報道の仕方から変わってきますよ。経済成長と関わる時代の流れと非常に敏感に対応する。これは宗教者だろうとかなろうと、あまりその間の差はないと思いますね。

知事 今回、滋賀県の「死生懇話会」でも、そういう介護のお仕事ですとか、看取りのお仕事なんかをされている方にご参加いただいたり、インタビューに応じていただいたりしていますので、そのあたりの現実の問題も出てきます。

山折先生 それは非常に結構なやり方だと思いますよ、どんどんおやりになるといいですね。

知事 そういう現実もしつかり直視しながら、この「死生懇話会」を進めていきたいと思っています。

アニメ・漫画の世界っていうのは、存外に難しい問題をわかりやすく表現することに心を砕いているんですよ。

山折先生 やっぱりね、今の日本の文化が持っている世界に向けた発信力に、アニメ・漫画の世界があるわけですよ。アニメ・漫画の世界っていうのは、存外に難しい問題をわかりやすく表現することに心を砕いているんですよ。正確な情報を出していますからね。びっくりしたことがありますよ。仏教図鑑なんているのも出ておられますね。漫画で仏教の教義の難しいのをわかりやすく表現していますよ。

知事 そういう難しいテーマを、アニメや漫画、物語なんかで表現してみようっていうのも、有効な手法だと思えますね。
山折先生 今、小中学生は、遺伝子の問題であるとか、生命科学であるとか、あるいは宇宙科学の問題であるとかは漫画から学んだりしているわけですね。よく売れている漫画本なんかは、実によくできていますよ。難しい書物なんか読んでも全然わからないけど、漫画を読むとすっとわかる。これは生きていますよ、読み物としては。
知事 先生に今日いただいたお話をもとに、僕らも考えてみます。今日はありがとうございました。

滋賀県 「死生懇話会」

誰もが避けられない「死」について行政としても真正面から考えることで、「生」をより一層充実させるヒントを探ろうと三日月滋賀県知事の発案より、令和2年度に設置した懇話会。

色々な立場の方に委員としてご参画いただき、ゲストスピーカーや三日月知事も加わって「死」「生」という根源的なテーマについての議論を行っている。



2021年6月19日に滋賀県庁で開催した「第2回死生懇話会」の様子

滋賀県知事 三日月大造

1971年生まれ。滋賀県出身。一橋大学経済学部卒業後、西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）に入社。広島支社にて駅員、電車運転士や営業スタッフなどに従事。1999年11月西日本旅客鉄道労働組合（JR西労組（JR連合））中央本部青年女性委員長に就任。2002年4月（財）松下政経塾入塾（第23期生）。2003年11月に衆議院議員（民主党）初当選し、以降4期連続で衆議院議員を務めた。その間、観光・住宅・国土・交通等をテーマとした立法に関わるとともに、2009年9月民主党政権下において国土交通大臣政務官、国土交通副大臣などを歴任。2014年7月滋賀県知事に就任。2018年7月に再選、現在2期目。

宗教学者 山折哲雄氏

1931年、サンフランシスコ生まれ。1954年、東北大学インド哲学科卒業。国際日本文化研究センター名誉教授（元所長）、国立歴史民俗博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授。難しいテーマをわかりやすく、かつ独特な視点から論じているユニークな宗教学者。専門も宗教学、思想史のほか西行などの文学的テーマから美空ひばりまで、その関心とフィールドの広さには定評がある。著書に『死の民俗学』『親鸞をよむ』『義理と人情 長谷川伸と日本人のこころ』『これを語りて日本人を戦慄せしめよ 柳田国男が言いたかったこと』『「ひとり」の哲学』など多数。